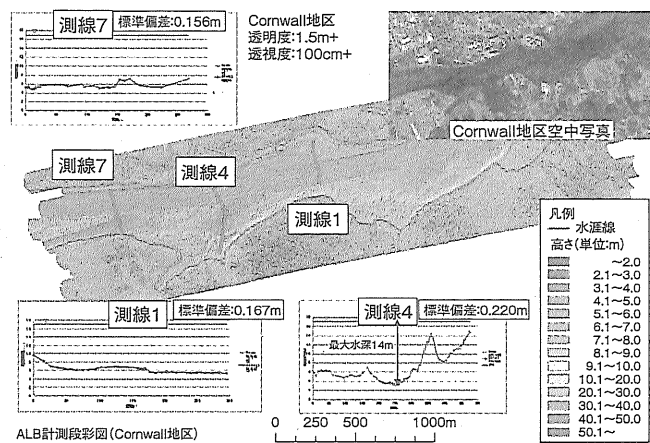


河床の地形、空から測定



カナダ・セントローレンス川での実証実験で作成された河床地形の測定画像

国交省 2年後実用化目標

国土交通省は、航空機に搭載したレーザー測深機を使い、空中から河川の水面下の地形データを瞬時に取得する新技術を開発する。従来は調査員が地上から計測していたが、新技術を使うと、河床の高さの違いが広範囲にわたって一度に連続的に把握でき、調査コストの大幅削減につながる。色の濃さの違いによって地形が一目で分かる3次元のカラー図面を作成できるため、河川整備の事業説明などにも役立つ。13年度には実用化できる見通しだ。

カラー画像で調査コスト大幅削減

護岸工事や河床掘削などの河川整備を実施する際、整備の手法や範囲、使用材料などを固める計画段階で、生態系への影響をできる限り小さくする対策を検討することが必要になる。そこで活用されるのが河床の地形データ。開発するのは、航空機に搭載したレーザー測深機を活用し、空中から水面下の地形データを広範囲に取得する技術。産学官連携で先端的な技術開発を進める11年度の「河川砂防技術研究開発公募」で採択された。昨年度にカナダ・セントローレンス川のコンウォール地区(幅600m、長さ4.5km)で行った実証実験の結果、船上からソナーを使って詳細に測った地形データと同等の計測結果が得られた。これを受け、国交省は12～13年度の研究継続を決め、パスコなどを

中心に実用化に向けた研究開発を加速させる。航空機レーザー測深による1回のスキャン幅は115～230m程度で、水深50m程度までの地形画像の取得が可能と

形のかぼみや盛り上がりなどを詳細に把握するのにも難しい。こうした不十分なデータでは水生生物などの産卵場所や生息場を可視化できるため、事業の計画が立てやすくなり、事業の必要性を住民などに理解してもらうのにも大きく役立つとみている。

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |

平成24年5月9日(朝)・夕) P /